

特集1

令和6年度総括

特集2

わたしたちが取り組む**感染対策 & 制御**

年度末退職医師掲載





10/19
すべてのみなさんに
ありがとう
絆を深めた病院祭

病院祭運営事務局長 吉山 徹郎

10月19日(土)に第14回病院祭が開催されました。今年度は「病院と地域や社会がつながり合う」を念頭に準備を進めました。以前より地元の高校生、ボランティアさんたちにご協力頂いてきましたが、今回はさらに市役所、警察署、地元の大学生、様々な企業や団体の皆様が協力してくださり(日程の都合で残念ながら見送りとなった企画もありましたが)、当日は1,500名ほどの来場者をお迎えすることができました。足を運んでくださった皆様、協力して下さった地域・関係者の皆様からのご支援が、当日パフォーマンスを底上げする力ともなり、かつてないほどの大盛況で、病院中が素敵な音や香り、笑顔や歓声で一杯になりました。素晴らしい病院祭が開催できたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



10/6 玉川ケヤキフェス参加



4/1~
地域の医療を守り育む
新体制スタート

諏訪中央病院組合 統括院長 今井 拓

令和6年度は新体制で組合運営に臨みました。医療に関しては、国が2040年に向けて「新たな地域医療構想」を検討している時期でもあり、当院でも「諏訪中央病院がこの地域で未来に向かってどのような役割を担っていくべきか?」という検討を始めています。今後、ますます増加が予想される「高齢者の救急対応」において、個人のさまざまな背景や事情に細やかに向き合い、あたたかく迎え入れることができるように、機能の充実を図っていく予定です。2つの介護施設の将来に向けた在り方についても議論が進みました。単に古くなった施設を新しくするというのではなく、「地域共生社会」を目指す中で、病院と同一敷地内にあるという良さ、多くの人があじり合うことにより「支えあえる」施設づくりを令和7年度は構想していきます。また今年度は病院祭やホスピタルコンサートなど地域に開いた活動が再開できました。病院祭同日に看護学校のオープンキャンパスも開催され、それぞれの来場者の行き来もあり、病院併設の看護学校の良さも地域の方にご理解いただけたのではないかと思います。



特集1

組合立諏訪中央病院 院長 佐藤 泰吾

数多く現場に足を運び、さまざまな人々と話しをすることを心がけました。15年後の医療の在り方を構想し、新たな一歩を踏み出すためです。人口減少と高齢化が進む時代の移行期において、高齢者救急・地域急性期機能を守ることが課題です。困っている方々を快く引き受けなければなりません。多くの救急患者さんを受け入れました。この数年で救急車搬入件数も急増、今年度は3,500件前後となる見込み。同時に患者さんたちにどのように在宅や施設で生活していただくかを丁寧に考える必要が高まっています。ケアミックス型診療体制で多職種が協力しながら、このことにも積極的に取り組んでいます。今後も院内外の皆様と協力し合いながら時代の課題に向き合い続けます。



11/14 ポニーが来たよ



改修前のラウンジ



改修後のラウンジ



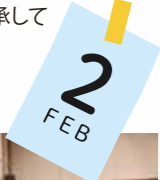
11/5
クラウドファンディングで
改修した病棟スペースの
完成披露会

小児産科女性病棟看護師長 藤田 由理

2023年12月~2024年1月に実施した小児産科女性病棟内にあるラウンジ改修のためのクラウドファンディングでは、1,600万円を超えるご支援を頂きました。当初の目標金額を大きく超え、本当に多くの方々からのご寄付と、沢山の応援メッセージを頂き、夢が実現できたことに心より感謝申し上げます。今年度に入って着工となり、おかげさまで11月にラウンジの改修と個室の内装工事はすべて終了し、とてもあたたかな素晴らしい空間に生まれ変わりました。内覧会などを経てラウンジは現在、赤ちゃんとお母さんの集いの場としてご利用いただいています。個室の快適さも大幅にアップしました。今後も地域の皆様のご期待にしっかりとお応えしていくため、スタッフ一同努力してまいります。



12/21 クリスマスコンサート開催
ホスピタルコンサートを継承して



2/8 臨床研修20周年記念式典開催



9/14 ちのし
健康&食育
フェスタ参加



11/14~
外来診療の「DX」が
本格的に始動

事務部医事課長 望月 賢一

患者さんの利便性の向上、医療現場の効率化のため外来診療の「DX」を推進する中、今年度はサービスの導入・基盤づくりを以下の内容で行ってきました。
○待受け表示システム モニターによる順番表示で診察までの待ち時間を見える化
○電子処方箋 保険薬局と病院・診療所の連携が密に、より安全な処方を実現
○「ポケメド」システム スマートフォンを使用し、会計あと払いサービス、薬配送サービス、Web受付、予約確認、会計確認、外来受診待ち確認などを効率化
○マイナ保険証利用促進 マイナ保険証利用を元に、医師らが患者さんの情報を共有でき、救急時・災害時などの投薬・検査などに生かせる
導入したばかりで、ご迷惑をおかけする部分もあるかと思いますが、ご理解ください。来年度は、サービスを広めていく取り組みを行ってまいります。



待受け表示システム



マイナ保険証読み取り機器

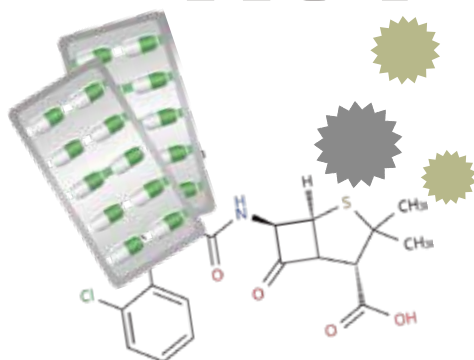


5/29 春のグリーンパサー



7/3 第267回ほろ酔い勉強会 参加数150名超!!

AST



細菌感染症の治療において、最も大切な武器は抗菌薬です。多岐にわたる抗菌薬の中には、特定の細菌に強い効力を持つものもあれば、幅広い細菌に強いものも存在します。こうした抗菌薬を、原因となる細菌に応じて適切に使用するサポートを行うチームが、抗菌薬適正使用支援チーム AST (Antimicrobial Stewardship Team) です。

金曜日の午前11時15分、細菌検査室にチームのメンバーが集まり始めます。医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職で構成されています。

活動はまず新規に感染症になった患者さんの確認から始まります。特に重点をおいているのが、特定の抗菌薬のみ有効な「耐性菌」による感染症と、血液から細菌が検出される「菌血症」のケースです。前者は適切な抗菌薬を使わないと細菌を倒すことができないため、検出された耐性菌と現在使われている抗菌薬を

チェックし、不適合な場合は主治医に連絡します。後者は感染症として速やかに適切な治療を行わないと重症化するため、抗生剤治療が行われているか、行われているとすれば正しい抗菌薬を使っているかを評価します。両者とも大切なのは検出された細菌の種類であり、このセッションでは細菌の培養検査を知る臨床検査技師が中心を担っています。

続いて、特定の抗菌薬を使っているケースのチェックを行います。細菌は生物であり、進化し抗菌薬に対する耐性を獲得します。感染症治療の歴史は耐性菌との戦いであり、科学の進歩により生み出された「さまざまな細菌に対応できる抗菌薬」を濫用すると、どの抗菌薬も効かない耐性菌が生み出されてしまいます。いわば切り札である広域抗菌薬が正しく使われているのかを確認するのがこのフェーズで、抗菌薬処方データの持つ薬剤師を中心に議論と確認が進

みました。ASTは週2回活動を行っており、通算開催数はなんと1500回を超えています。医師や看護師のみならず、コメディカルがさまざまな角度から確認することが、当院の感染症治療を支えていると言っても過言ではありません。



わたしたちが取り組む 感染対策 & 制御

特集 2

感染制御チーム

ICT



report

AST × ICT

当院のICTには、助産師、理学療法士、臨床工学技士、放射線技師など、ASTよりたくさんの職種が参加しています。ICTでは職種の垣根を超えて、6つのワークグループとして活動しています。

- ① 針刺し
(採血や点滴の際、誤って自分に針を刺してしまうことで血液感染の原因となる)
- ② 水回り
(湿度が高いため菌が繁殖しやすく、洗浄した物品経由等での感染が起こり得る)
- ③ 手指消毒
(適切に手指消毒をしないと、感染症が医療者の手指から他の患者に伝播する)
- ④ ミキシング
(点滴などを作る場所のこと。薬剤の混注などを行うため、水回り同様に清潔に保たないと細菌が混入する)
- ⑤ 汚物室
(オムツや排泄物などを処理する部屋は、尿瓶やポータブルトイレ物品などの保管場所でもあり、汚物と洗浄物の管理の調整が必要)
- ⑥ 経路別
(細菌やウイルスの種類に応じて、適切な感染対策が取られているかの確認)

感染症対策のもう一つの側面が「予防」で、感染拡大を防ぐために多方向から適切な対策を行っているのが、感染制御チーム ICT (Infection Control Team) です。



病院へ行く病気といえどどんな病気を思い浮かべますか。脳卒中、がん、心筋梗塞、骨折など、さまざまな病名が挙がると思いますが、病院で闘う患者さんが一番多い病気は「感染症」です。

新型コロナウイルスの流行に感染症の恐ろしさを思い知らされたのち、私たちは共生の時代を迎えています。ポストコロナのいま、諏訪中央病院がどのように感染症への対策を取っているか、今回は活動の一部をお伝えします。

今回は⑥の経路別グループの活動に参加してもらいました。当院の病室の入口には、病気や症状に合わせて行う感染対策を掲示していますが、本年度より動物のアイコンを用いて分類し、視覚的にわかりやすく改良されました。この日は変更後の反省と振り返りをチーム内で行っていました。いつもはチェックリストを用いて、病棟ごとに感染経路別の予防策が取られているかをラウンドし、フィードバックを行っているそうです。また、⑤の汚物室チームでは汚染物と洗浄された器具との動線を分けるために、新たに柵を組み立てて部屋の中の整理を行っていました。

特定の対策に特化し、小回りが効くワーキンググループをベースとして活動しているからこそ、実際の臨床現場の問題点を細かに拾い上げることができ、速やかな対策につながっているのだと実感しました。



両チームの活動へ参加し実感したのは感染対策に対する意識の高さです。ASTは感染症診療の最前線にいるメンバーそれぞれが、自分の得意分野を活かしながら総合的に治療の適性を評価しています。一方のICTは感染症患者と直接接しないスタッフも含んでいますが、全員が当事者意識を持ち、対策の遵守徹底についてチェックしていました。感染症と闘う患者さんへ高い医療を提供し、かつ感染の拡大や医療従事者への二次被害を防ぐために、当院の感染対策チームの活動は、今後も続いていきます。(編集部 山口俊大)



循環器内科医師 高橋 美紀 たかはし みき

医者3年目から専攻医としてお世話になり、早いもので丸6年勤務させていただきました。来年度は県外の病院で心エコーの研鑽を積む予定です。また地元である長野県に戻ってきた際にはそこで学んだことを生かして皆様の健康に少しでも貢献できればと存じます。ありがとうございました。



整形外科医師 鮫島 基彰 さめじま もとあき

1年間と短い間でしたがお世話になりました。

冬はとても寒かったですが、例年よりは暖かかったようで、雪かきもせずに任期満了となりそうです。寒がりの私には助かりました。

改めて支えてくださった皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。



麻酔科部長 石丸 美都彦 いしまる みつひろ

私がこの病院に来たのは東日本大震災の翌年でしたので、かれこれ10年以上前になりますでしょうか。地震の後はもちろんですが、その後はコロナもあって随分と世相の騒がしい10年であったかと思えます。それもあって振り返ればあつと言う間の10年ではありましたが、その間たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。



呼吸器内科医長兼 救急総合診療センター副センター長 伊藤 浩 いとう ひろし

諏訪中央病院で約4年間お世話になりました。様々な仕事をさせていただいたので、多くの方々と出会うことができました。「もっと長く働いていた感じがする」と言っていたことが多々ありますが、患者様や職員の方々と濃密で充実した時間を過ごせたからだと思っています。皆さんから多くを学び、支えていただいたことに心から感謝しています。このたび、茅野市米沢でクリニックを開業し、この地域の医療を別の形で支えていきたいと考えています。これまで本当にありがとうございました、そしてこれからもよろしく願いいたします。

Q & A

ぎもん

感染症についての？にお答えします

01

ワクチンで予防できる疾患にはどのようなものがありますか？

新型コロナウイルス感染症やインフルエンザに加えて、带状疱疹ウイルスと肺炎球菌について知っておきましょう。

今冬は年末年始にインフルエンザが大流行し、当院でも重症患者の入院により満床となり、他疾患での入院ができないという状況も発生しました。ワクチンは発症予防効果に加えて、重症化予防効果があります。新型コロナウイルスワクチンでは国内で60歳以上の入院予防効果が44.7%、海外ではICU入室予防効果が73.3%というデータが発表されています(厚生労働省)。ポストコロナ時代においても高齢者や基礎疾患がある方には接種をおすすめします。

また、ワクチンでの予防が一般的な疾患に带状疱疹ウイルスと肺炎球菌のワクチンがあります。带状疱疹は重症となった場合は入院が必須で、また後遺症としての神経痛は難治性です。肺炎球菌は成人の肺炎の原因としてもっとも多い菌です。高齢者や免疫機能が落ちている方は、積極的な接種をおすすめします(肺炎球菌ワクチンは、65歳で公的補助が1度受けられます)。当院では内科・総合診療科とワクチン外来で受け付けています。まずは主治医にご相談ください。

02

感染症にかかってしまいましたが、人にうつさないためにはどのような対策が必要ですか？

原因となる感染症の感染経路によって、対応が異なります。

新型コロナウイルスは、強力な感染力を持つウイルス感染症として依然大きな脅威となっています。インフルエンザウイルスやコロナウイルスは咳やくしゃみによって感染が媒介される「飛沫感染」の形態なので、感染した場合はマスクで飛沫を飛ばさない・吸い込まない対策が重要となります。

汚染されたものからうつる感染症は「接触感染」と呼ばれ、代表的なノロウイルス感染症では、吐物や便から感染します。コロナやインフル、細菌感染も手指にこれらの菌がついた状態で鼻や口、眼を触れることで感染します。したがって、手袋の装着による汚染の予防、手指消毒の徹底が対策となります。

同じ部屋の空気を吸うだけで感染してしまうのが「空気感染」です。この形態を取る感染症は少ないですが、結核や麻疹、水痘がこれに当たります。当院では結核や播種性带状疱疹(水痘と同じウイルス)が疑われる場合は、個室管理で対応をしています。

03

抗菌薬がなくなっているというニュースを見ました。本当ですか？

さまざまな要因で抗菌薬の流通が滞っており、耐性菌の観点からも適切な抗菌薬使用が求められる時代になっています。

抗菌薬は感染症治療に必須の薬品ですが、原料調達や生産を海外に依存している結果として、円安での製造コストの増加、海外における品質管理、国際流通の問題などにより、抗菌薬の製造供給が頻りに停止する時代に突入しています。ASTの項で述べた通り、特定の抗菌薬でしか治療できない耐性菌がある以上、抗菌薬の流通問題は我々の生命を脅かすこととなります。

少ない抗菌薬を適切に使う心がけが大切です。コロナやインフルエンザ、これまで「かぜ」とされてきたようなウイルス感染症には抗菌薬は無効ですし、お子さんの中耳炎は抗菌薬濫用が叫ばれてきました。こうした抗菌薬使用は耐性菌の産生も招きます。特に外来治療の中心となる内服抗菌薬はもともと選択肢が少ないため、流通不足と耐性菌の影響を最も受けやすいといえます。患者、医療者ともに、こうした意識を持って今日の感染症治療に臨む必要があります。



研修医 佐野 由依 さの ゆい

2年間お世話になりました。長く短いこの期間で、たくさんのお出会いと多くの学びがありました。毎日忙しく過ぎる時間の中で仕事に向き合い、不安なことやわからないことも多々ありましたが、朝日に浮かぶ八ヶ岳や真っ白に染まる冬の家々がとても穏やかに見守ってくれていました。駆け出しの若い時期をこの土地で過ごし、皆様に出会えたことは本当に大切な経験になりました。今後もここで学んだことを糧に頑張ろうと思います。ありがとうございました。



研修医 嶋原 飛翔 しぎはら つばさ

2年間大変お世話になりました。頼りになる同期、優しく親身になってくださる上級医の方々、個性的な後輩に囲まれて、楽しく充実した研修生活を送ることができました。コメディカルの方々も優しく、非常に働きやすい環境でした。来年度からは佐久医療センターで内科専攻医として働きます。この2年間で培った経験を活かして、患者さんのために正しい医療が提供できる医師を目指し精進してまいります。2年間本当にありがとうございました。



専攻医 常見 勇太 つねみ ゆうた

初めての地域医療は新しい環境、凍える寒さなど慣れないこともあり、皆様に多くのご迷惑をおかけしましたが、皆様の温かいお言葉やお気遣いのおかげで半年間走り切ることができました。短い期間ではございしましたが、この地域の医療に携わらせて頂いたことを誇りに思い、診療に向き合っていく所存です。そして近い将来には自分が診察、治療したことを誇りに思ってもらえるような世代を代表する医師になり、またみなさんとお会いできましたらこれ以上に嬉しいことはありません。半年間ありがとうございました。



専攻医 太田 孝一 おおた こういち

諏訪中央病院での3ヶ月間は、地域医療の現場を肌で感じ、多職種連携の重要性を学ぶ貴重な経験でした。八ヶ岳の美しい自然に囲まれた環境で、患者さんとの距離が近く、温かい地域医療に触れられたことが印象的です。また、先輩方やスタッフの皆さんから多くを学び、医師としての視野が広がりました。今後は、この経験を糧に、どこにいても患者さんに寄り添う医療を実践していきたいと思ひます。



リウマチ・膠原病内科 フェロー 山口 俊大 やまぐち としひろ

2019年2月、東海大病院から短期研修で当地に来た日を昨日のように思い出します。行われている医療のレベルの高さに衝撃を受け、八ヶ岳の麓の皆様の優しさや自然の豊かさにも惹かれ、後期研修・専門研修の5年間を当院で過ごしたくさんの経験をさせていただきました。また、2023年からは本誌の編集にも携わらせて頂きました。DXや災害医療など病院の広報誌から一線を画した特集を組めたことは、元新聞部としての矜持を発揮できたと密かに自負しております。6年前に思い描いていたほどの医師には努力不足もありなれておらず、来年度は一旦当院を離れて研鑽を更に積ませて頂くこととしました。外来を縮小する関係で患者様にはご迷惑をおかけしますが、成長してまた皆様のお役に立つことでお返しできればと思います。



専攻医 芹澤 廣香 せりざわ ひろか

1年間大変お世話になりました。大阪の高度医療機関とは異なる環境で、地域に求められる医療を考えながら診療を行う機会も多く、貴重な経験を積むことができました。多くの先生方やスタッフの皆様にあたたかく支えられながら学びを深めることができましたことを心より感謝申し上げます。この経験を糧に、今後もより良い医療を提供できるよう努めて参ります。ありがとうございました。



整形外科 医師 仙石 祐 せんごく たすく

1年間と短い勤務期間でしたが、大変お世話になりました。寒冷地での勤務や居住ははじめてで、沖縄から引っ越してきたこともあり、寒さはすごく心配でしたが、なんとか慣れることができました。逆に夏はとて過ごしやすく、いつまでも夏らしいのと思うほどでした。個人的にはFCアビスというサッカーチームに所属し、地元クラブの一員として楽しくサッカーができました。(残念ながら実力不足であまりチームには貢献できませんでしたが)地域に根ざしたサッカークラブを通じて子供から大人まで関わりあう、素晴らしい文化があるまちだと感じました。今後とも地域の発展をお祈りしております。



整形外科 医師 高嶋 吉朗 たかしま よしあき

1年間ありがとうございました。病院ではたくさんの方々に支えられて仕事をすることができて大変感謝しております。地域の方々にも大変お世話になりました。初めて来た茅野でしたが夏は涼しくて過ごしやすく、冬は氷点下を経験できて充実した1年間を過ごすことができました。茅野から離れるのは寂しいですが、4月からも精進してまいります。これからも皆様のご健康を祈念しております。ありがとうございました。

第20回

医療現場の束の間のひととき

★ナリヤナリ★

院長補佐兼副看護部長兼地域連携部長

鬼崎 喜代美さんの回

レトルトや病院売店も活用してお弁当を用意しているという鬼崎さん。今回は貴重!?(笑)だという手作りで、出身地九州の味を作ってくれました。有名な高菜の油炒めに、鶏そぼろが添えられ、色鮮やかで美味しそうです。趣味は野球観戦。横浜 DeNA ベイスターズのファンで、お昼の休憩中にスポーツナビでベイスターズのニュースをチェックするのが日課とか。ハマの番長こと三浦監督のパーティに参加したこともあるという熱狂ぶり、上手にリフレッシュしている印象を受けました。

職場は、正面入口横の患者サポートセンター内。入退院支援や受診調整などを行う地域連携部で、主に医療連携(かかりつけ医からの紹介や緊急受診の調整、病院間の受診調整、転院調整など)を担当しています。また利用者相談窓口や茅野市医療・介護連携支援窓口などで、患者さんやご家族からの相談にも対応。患者さんやご家族の方が「気持ちがあが

きりしました「安心しました」と笑顔で帰宅されるのが何よりうれしく、やりがいを感じるそうです。

「八ヶ岳西南麓のこの地域は本当に素敵な場所」と鬼崎さん。「患者さんの入退院支援や病院間の橋渡し役として、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことをこれからも応援していきます!」と意気込みを伝えてくれました。



メディメシ
「メディカル・スタッフ(医療従事者)のご飯」の略

医療の現場は日々忙しいイメージ。そんな中でお昼ごはんのひとときにお邪魔し、色々な角度から人物像を探るコーナー。



第8回

鍼灸師のつぶやき

鍼灸師 伊藤 美咲

卒業や入学準備の時期になり、日差しが暖かく感じられるようになりましたね。季節の変わり目は体調を崩しやすいですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか?

風が強くなる春は「風」の影響を受けやすくなると東洋医学では考えられています。このあたりはまだまだ寒さもありますし、気温が安定しない時期になりますので、風と寒の邪気が身体に侵入しやすく、頭痛などの不調が出やすいか

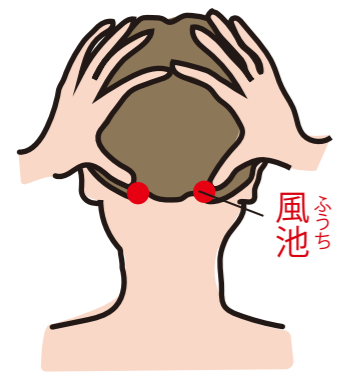
と思います。頭の横が痛い、張るような痛み、寝違えなどの不調は、風と寒が影響しているのかもしれない。みなさまには季節の変わり目の不調に負けず、健やかに過ごしていただきたい!

そこで今回は風や寒の影響を受けて起こる頭痛に対するセルフケアをご紹介します。このツボは目や首の疲れにも効果があるので、みなさまぜひ取り入れてみてくださいませ。



※突然の激しい頭痛・だんだんと痛みが増す頭痛・痺れや呂律が回らない... そんなときは病院へ!

ツボ:風池
耳の後ろにある骨から後ろに向かって触っていき、1番最初に触れるくぼみ。



1. ゆっくり押していく
2. 痛み持ちは強さになったらそこで3秒止める
3. ゆっくり指の力を緩める

第41回

病院から地域へ

脳死と異種移植について

名誉院長 濱口 實



昨年暮れに脳死による臓器移植が、日本ではまだまだ少ないとニュースになりました。生体肝移植は多く行われているので技術的には問題ないと言えます。脳死によるドナー臓器が少ないのが原因ですが、移植臓器を得ることは難しく、移植のために渡航することが問題となっています。

そこで異種移植のために、豚を使えないかと昔から考えられてきました。そして実際に、異種移植を視野に無菌豚の飼育が始められました。

もう30数年前になりますが、まだ日本では脳死移植が行われていなかったため、パリに肝移植の勉強に行き、脳死肝移植の手術に助手として参加させていただきました。手術はいつも夜になることが多く大変でした。同時に病院と隣接したバスツール研究所でラットとモルモットの心臓移植をやることになりました。ラットとモルモット

トは近い種だと思われがちですが、以外と遠い関係にあります。生物の進化は思いもよらぬ結果にたどり着くことがあります。例えばゾウと海に住むマナティはかなり近い種である、というようです。

実験はまず、ラットの心臓移植の手法の習熟から始めました。何とかうまくできるようになり、ラットからモルモットの異種移植を行うことになりました。移植の拒絶反応は急性拒絶反応と慢性拒絶反応があります。異種移植では超急速拒絶反応で数時間でダメになることがあります。腹部に移植した心臓の拍動が止まるのが拒絶の結果となります。現在も免疫抑制剤として移植や自己免疫疾患に使用されているシクロスポリンを使用しましたが、生着の延長は得られませんでした。

2022年米国で豚の心臓の人への移植が成功したとの報告がありました。しかし、異種移植にはいろいろ問題があります。(次号に続く)

第18回

減災を身近に

防災士 手術室看護師 濱 貴彦



東日本大震災から14年、阪神淡路大震災から30年経過しました。

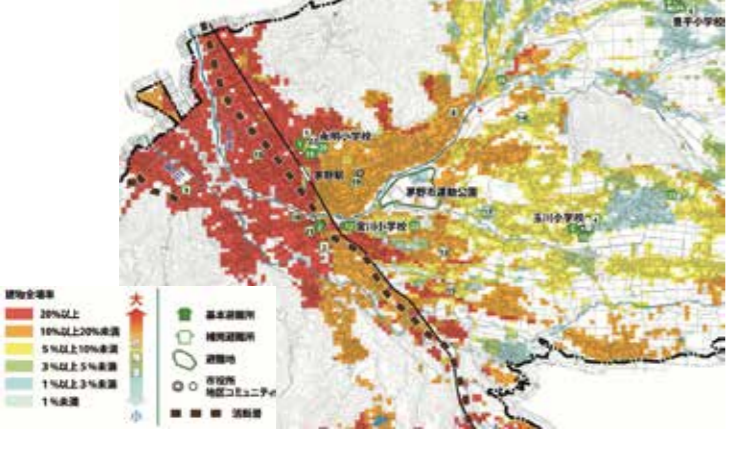
阪神淡路大震災被災者アンケート(NHK調べ)では6割以上が記憶や教訓が風化している、また能登の地震に対して、過去の教訓が生きていないと答えました。能登半島地震でも、阪神淡路と同様に、家屋倒壊による圧死、通電火災による被害が多く、今回の地震の前に耐震工事がされていなかったことに、阪神淡路大震災の教訓が生きていない、と感じたようです。諏訪地方の地震被害予測でも家屋倒壊数も多く、教訓が生きていない可能性があります。

茅野市の危険度マップでは、家屋倒壊が国道20号線沿いに多く予想されています。耐震診断については、市などのホームページに情報があります。耐震改修に補助金が出る自治体もあるので参考にしてください。

また阪神淡路震災被災者に何が一番大切かを聞くと、1:水や食料の

備蓄、2:家屋の耐震化、3:住民同士の助け合いとの結果でした。

諏訪地方では、衣類、寝具に加えて防寒対策も必要になります。大災害の教訓を今、私たちの地震対策に生かしましょう。今、動き出さなければ、震災の教訓が無駄になってしまいます。教訓を生かすのは今です。



研修医は今

臨床研修20周年記念式典レポート

2月8日、諏訪中央病院臨床研修20周年記念式典が開催されました。

前号特集でご紹介した通り、当院では2004年より臨床研修を開始し、これまで多数の医師が学んできました。当院に残りハケ岳の麓の医療を支えるスタッフがいる一方で、新天地へ羽ばたき活躍するOB OGもたくさんいらっしゃいます。20周年を迎えた今回は、全国津々浦々から100名を超える先生方が、列島をすっぴり覆う大寒波をもとめせず集まりました。

久しぶりの再開に会話が弾む中、歴史を振り返るムービーから式典はスタート。組合長である今井敦野市長の挨拶に続き、臨床研修委員長を務めた蓑田正祐医師の乾杯で、パーティーが始まりました。

式典中には、市立大町病院の総合診療科でご活躍されている金子一明先生、当院の臨床研究のアドバイザーとしてもご協力いただいている藤川裕恭先生、腎臓内科医として研鑽を積み重ねている麻生芽亜先生から当院での研修と近況報告を合わせたスピーチがあり、出席者で時代時代の

思い出を振り返りました。

研修開始当時、院長職にあった濱口實名誉院長のスピーチの後、佐藤泰吾院長から感謝の言葉が述べられ、三本締めで式典は幕を下ろしました。そのあと行われた二次会では、歴代のさまざまな写真を見ながら思い出のエピソードを発表する、という企画で盛り上がり、笑いの絶えない楽しい一日となりました。

今年度は、研修20周年に加えて今井統括院長・佐藤院長が就任し、当院を取り巻く環境も大きく変わりましたが、時代や体制が変わっても我々の使命は社会的共通資本である当地の地域医療を守ることであり、それを担える人材を当地で育て続けていくことです。

冠雪で真っ白であったハケ岳が気がつけば芽吹く緑で彩られているように、季節ごとに成長していく研修医・専攻医。患者様や地域住民の皆様には、その姿を一緒に見守っていただけたら幸いです。

(編集部 山口俊大)

